



風の子

糸魚川市立木浦小学校

H30 学校だより No.10

平成 30 年 10 月 10 日発行



うさぎのゴップ

自覚・自律・自尊

校長 富永 浩文

20 年以上も前のことです。市内の小学校に勤務し、5 年生を担当しました。総合の学習で秋まで稲を栽培し、その後豚を飼育しました。子どもたちとともに命と食を見つめました。

豚の飼育活動。新戸の伊藤さんの養豚場からお世話いただき、生後 1 ヶ月あまりの豚を 4 頭飼育しました。秋から冬へと移る、寒さの中での活動でした。えさ集めと小屋掃除、蝇との戦いでした。日に日になつてくる愛くるしい 4 頭。土日や正月もなく、子どもたちと世話しました。2 月、トラックに乗せられ出荷される 4 頭を涙で追いかけてきました。

子どもたちは、体験をとおして「命や食」を見つめ、その大切さを学ぶとともに、自らの命をも見つめ、これからの在り方を考えることができました。大切な命を預かり育てることへの自覚が生まれ、自らを律して活動に取り組みました。そして、命をいただいて自らが生きていることを実感し、自尊感情を高めていきました。

さて、1，2 年生が、9 月末からウサギを飼い始めました。「ウサギを飼わせてください。」ある朝 3 人そろって校長室にお願いに来ました。「ウサギには大切な命があります。あなたたちの命と同じです。その命を預かり、育てるのは簡単ではありません。いい加減な気持ちではできませんよ。

皆さんにはそれができますか。」と尋ねました。「できます。」子どもたちは自信をもって答えました。「それでは皆さんの生活の様子を見てお答えします。」と、答えを保留しました。

給食の時間、1，2 年生教室を訪ねました。期待して見つめる目。両手で大きな○を作ると、子どもたちは大喜び。さっそく、担任と飼育の準備を始めました。そして、26 日(水)の午後、かわいいオスのウサギを迎えました。貸してくださるセンターの方から飼育についての講習を受け、そのまま飼育を始めました。仲間が増えたことで、子どもたちはウキウキ、生き生き、元気も益々アップ。おっと、ちなみに名前は「ゴップ」です。ゴップのえさ集めやケージ掃除に熱心に取り組んでいます。ゴップとふれあい、命の温かさを実感しています。飼育活動をとおして、自覚、自律、自尊の心が芽生え、育まれるように期待しています。



ウサギを飼わせてください。



仲良くしようね。

教育活動あれこれ

【ベスト記録 続出！ 親善陸上大会】5・6年生

9月20日(木)

天候が心配された20日(木)の親善陸上大会。曇り空のため日差しが遮られ、また風もほとんどなく、穏やかな天候の中で行われました。市内14の小学校から6年生を中心に、366名の子どもたちが陸上競技場に集まりました。

木浦小学校は複式学級のため5年生も参加しました。12人全員が選手です。5年生にとっては6年生とともに競技に参加しますので、ハンディキャップはあります。しかし、来年を見据えて1年早く競技を経験できるメリットがあります。

今年は、学校の順番で木浦小学校に選手宣誓が回ってきました。木浦小学校代表、いや全市小学校を代表して6年生が、堂々と選手宣誓を行いました。競技場にこだまする歯切れのよい、元気でさわやかな声に、すがすがしさを覚えました。

子どもたちは、日常の体育の時間に加えて、2学期に入ってから課外陸上練習で、着実に力をつけてきました。競技ではその成果を精一杯発揮しました。また、友達が出場する競技にも大きな声で一生懸命応援しました。

その結果、全員がベスト記録を出すことができました。また、6年生男子全員で臨んだ400mリレーでは、見事6位に入賞することができました。7月の親善水泳大会に続き、陸上大会でも子どもたちは木浦小学校の代表として胸をはれる活躍をしました。



力強い選手宣誓



たくさんの保護者の皆様から当日応援、役員でおいでいただきました。子どもたちの頑張りを、皆さん大変喜んでくださいました。ご声援、ご協力をありがとうございました。

【収穫の喜び 稲刈りを行いました】 5・6年生

9月26日(水)



田んぼの先生の指導のもと、1時間ほどで刈り取りを終え、フェンスにかけ、天日干し

【第2回避難訓練 避難後の煙体験と初期消火体験】

9月26日(水)



◎前が見えず、煙のこわさを知りました。

◎大きな声で「火事だーっ」そして、初めての初期消火。

◎当日は、児童引き渡し訓練も併せて行いました。

お忙しいところ参加いただきありがとうございました。



【マラソン記録会に見る子どもたちの良さ、無限の可能性】

9月28日(金)

激しい雨が降り、延期も考えたマラソン記録会。しかし、グラウンドコンディションの回復を待って、1時間遅れで競技を開始しました。たくさんの保護者の皆さんが応援に駆けつけてくださいました。スタートする頃には青空が広がり、風もなく絶好のコンディションになりました。子どもたちは、皆それぞれの目標に向かってがんばりました。全校朝会では、記録会をふり返り、次の4つのことについて話し、子どもたちをほめました。

◇ ゴールまで 決して歩かぬ ねばりの走り

◇ どの子にも 応援の声かかる 温かさ

◇ 全員が 目標達成 自己ベスト

◇ ふり返り 自分の言葉で語る 満足感



無限石
←

がんばり続ける子どもは、伸び続けることができます。グラウンドへのアプローチにある、池上 奨(現在石川星陵大学)さん制作の「無限石」は、石をうまく組み合わせることで、普通は作ることができないカーブを、「くるっ」と一回転させながら美しく、なめらかに作っています。硬い石にも無限の可能性があるのでですね。子どもたちにも、努力することでのどのような方向にも才能を伸ばすことのできる、無限の可能性あります。無限石のところで、子どもたちの走りを見つめ、応援しながら、そのようなことを考えました。

